HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中川功哉教授について
Author(s)	須田, 功哉
Citation	北海道大學教育學部紀要, 75
Issue Date	1998-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29568
Type	departmental bulletin paper
File Information	75_P305-306.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

中川功哉教授について

須田　力

Profile of professor Koya Nakagawa

Tsutomu SUDA

中川功哉教授は，昭和47年に北海道大学に赴任してから26年間の永きにわたり終始意気軒昂で温かみ溢れる教育を全うされた。一般教育課程において，保健体育理論，体育学Ⅰ（旧体育実技），総合講義，専門教育課程において，体力学(旧身体発達学)，専門演習，健康体育学実験，大学院教育学研究科において，教育学，研究講読，教育衛生学，健康体育学特殊研究等を講じ，多数の学生を薫陶するとともに，一般教育(旧教養課程)，教育学部及び大学院研究科の発展に尽力された。

中川教授は，運動生理学をベースにした環境生理学的アプローチから，積雪・寒冷の北海道の自然環境に根ざした研究課題と研究手法により一般中高年齢者の健康増進の運動プログラムからノルディック複合選手の競技力向上の科学的サポートまで幅広い研究成果を公表された。一般中高年者の健康増進の運動として有酸素性運動が最も有効であり，そのためのトレーニングの運動強度として中程度の強度が適当であることが共通認識されるに至ったのは1980年代後半であり，それまでは，運動が効果を発揮するためには最大酸素摂取量の70％以上の強度が必要であるという理論が定説であった。中川教授は，すでに1980年文部省科学研究費による「中高年者の持久運動トレーニングによる呼吸循環機能の発達に関する研究」における縦断的測定を通して，中高年者においては50％$\dot{V}O_{2max}$(最大酸素摂取量の50％)程度の軽中強度運動でも短期間で十分な発達効果を期待できることを実証した。この理論が提唱されて以後，健康増進運動におけるAT(無酸素性閾値）の概念の適用，高強度運動におけるフリーラジカルの発生の問題，運動の強度と血液指標の変化に関する研究，ごく最近では長時間の高強度運動後の免疫能の低下などの研究成果を踏まえて，いわゆる「ニコニコペース」(50％$\dot{V}O_{2max}$)の強度が推奨されるに至った趨勢を見ると，中川教授の理論の先見性が改めて再認識させられる。

行動体力の発達・改善に関するトレーニング理論の成果と共に，森谷教授との共同研究である運動による鍛練が行動体力の向上と共に交叉適応として防衛体力（体温調節機能）の向上という効果をもたらす関係とその機構を解明した「縦断方法による運動と防衛体力特に体温調節機能の発達及び機構に関する研究」（平成5年度文部省科学研究）の成果は，「北海道健康づくり指針」をはじめとする旺盛な著作活動を通して，積雪・寒冷の冬季間非活動的な生活によって行動体力，防衛体力の低下に陥り勝ちな北海道の住民が，健康なライフスタイルを確立していく上でかけがえのない役割を果たした。

学外においては，日本体育学会理事(昭和46年から現在)，日本体力医学会評議員（昭和46年から現在)，日本運動生理学会理事(平成5年発会以来現在)として自身の研究活動のみならず北海道の研究者の代表者としての重責を果たし，学会活動の発展に貢献している。札幌市スポーツ振

興審議会委員（昭和51年から平成9年3月），札幌市スポーツ振興事業団理事（昭和60年から現在），北海道健康づくり推進委員（平成3年12月から平成7年3月）の要職において学識経験者として地域のスポーツ振興に力量を発揮した。さらに，北海道体育協会スポーツ科学委員会副委員長（昭和58年から現在）及び全日本スキー連盟トレーニングドクター（昭和55年から現在）として，スポーツ科学研究の成果を競技力向上に生かす活動の推進役でもあった。

学内においては，教養部予算委員長，教育学部創立40周年記念事業委員長などで管理運営の重責を果たす一方，体育指導センター長(昭和59年4月から昭和63年3月)，北海道大学体育会フェンシング部部長（昭和52年から現在）を通して課外活動の発展にも寄与した。

中川教授は，一般教育では「健康運動」という運動要注意者や身体障害者の学生が楽しく安全に運動に親しめるコースを担当し，ヒューマニズムを基調としながら健康管理の講義と実験などを交えたユニークな実技教育を展開した。「健康運動」を通しての中川教授の教育姿勢と実践に，現在大学体育の在り方について問いかけられているさまざまな疑問に対し胸を張って答えられる方向性を感じ取ることができる。身体発達のゼミにおいては，運動生理学の豊富な知識と明快な説明で運動とからだの発達に関する科学の面白さと奥深さを多くの学生達に伝えてくれた。北大を去られた後も，学生達の無限の可能性を信じた暖かい教育姿勢とライフワークである運動と休養の研究で更なる活躍を期待したい。